

# 戦略性が高く、意欲的な目標・計画に係る取組 Strategies for Third Medium-term Goals and Medium-term Plans

## 「戦略性が高く、意欲的な目標・計画」とは

平成28年度から6年間の大学運営方針をまとめた第3期中期目標・中期計画の中でも、特色ある活動や高い目標を掲げている目標・計画です。

以下に奈良女子大学の「戦略性が高く、意欲的な目標・計画」とその取組について、2つのテーマにわけて紹介します。

## 【テーマ①：文理を超えた幅広い視野を持ち世界に通用する女性リーダーの育成】に係る取組

### ●理工系教育のあり方を研究開発するとともに、女性リーダーの育成拠点として、教養教育を基礎とした教育プログラムを確立する

奈良女子大学は平成27年にお茶の水女子大学と共同で理系女性教育開発共同機構を設置しました。多くの女性が中等教育段階の理数教育に興味・関心を示さず、理工系進学を目指そうとしない現状に鑑み、女性の理工系学問への関心を惹起することができる新たな理数教育のモデルを、中等教育のレベル、大学教育のレベルそれぞれに確立することを目指しています。

平成30年度は附属中等教育学校と、女子生徒による科学研究発表会である、「集まれ！理系女子」関西大会を開催するとともに、国際サイエンスワークショップとして、「グローバル理系女性育成国際サマーカーンプ2018：SCORE2018」を実施し、ワークショップ、企業見学、フィールドワークその他の活動を行いました。



### ●お茶の水女子大学と大学院に生活工学共同専攻を設置し、融合新分野の「生活工学」を立ち上げる

平成28年度に、奈良女子大学はお茶の水女子大学と共同で大学院生活工学共同専攻を設置しました。理工系の中でもとりわけ女性の進学が少ない工学に女性の興味・関心を誘うため、従来から多くの女性の支持を得てきた生活科学と工学を融合させ、生活の必要を技術革新に結びつける生活工学という先端領域を切り開き、理工系教育の新たなあり方を確立することを目指しています。

生活工学共同専攻では、生活工学の最先端の知識を学ぶ特別講義を開講し、具体的な課題を自ら解決しつつ横断的・実践的な学習を進める、

Project Based Learning (PBL) スタイルの実践学習を行っています。

また、最先端の機能性新素材や情報処理技術を健康管理や生活空間の快適性向上など日常生活に応用する、学際融合的な研究を行っています。



生活工学と従来の工学

### ●学士課程と博士前期課程の接続に配慮した6年一貫教育を実施するにあたり、大学院を再編して教育課程を体系化する

平成26年度に実施された学部の壁を越えた改組を踏まえ、目下の日本の課題である、グローバルに活躍できる地域女性リーダー、理工系女性リーダー等各界各層で活躍できる女性リーダーを育成するために、大学院博士前期課程・博士後期課程の改組を実施しています。

平成30年度に実施された大学院博士前期課程の改組においては、学部から見通しやすい組織づくりを行うとともに、6年一貫教育プログラムを採用し、学部学生が大学院科目の先取り履修を行うことで、長期にわたる留学やインターンシップ等を組み入れた自由度の高い学修を設計することを可能にしました。6年一貫教育プログラム生は、平成29年度学部入学生から対象となり、令和3年度からの大学院入学に向けて、学部卒業後も寄宿舎に引き続き入居できるよう規程を改正したり、各学部10名以内の優秀な学生に対し、なでしこ基金の学生支援事業として、検定料・入学金相当額を給付する「大学院プログラム特別奨学制度」を実施したりするなど制度を整備しています。

令和2年度には、今後の社会に貢献しうる「総合科学」という方向性を明示するため、現行の研究科名称を「人間文化総合科学研究科」に変更するとともに、これまでの博士後期課程のコンセプトである、学問分野の複合・融合を担保しつつ、基礎・学問分野が見えるわかりやすい教育組織・名称になるよう、組織整備を行う大学院博士後期課程の改組を予定しています。

## 【テーマ②：大和・紀伊半島から世界へ、世界から大和・紀伊半島へ、教育研究のグローバル化の推進と地方創生】に係る取組

### ●奈良を中心に日本文化研究の国際的ネットワークを築き、日本文化の普遍性を追求する

奈良女子大学は、世界史的重要性を持つ古都奈良に立地しています。この恵まれた環境を活かし、日本文化や社会の普遍性、世界性を発見し、それを通じて「日本研究」と「外国研究」の双方向的な対話を促進することで、我が国の人文・社会諸科学の新たな地平を開くことを目指しています。

この取組の一環として、日本の国家や文化、宗教の発祥の地に足場を置いた日本文化交流研究の拠点を立ち上げるため、大和・紀伊半島研究に関わる学内3研究拠点(共生科学研究センター、古代学術研究センター及び文学部なら学プロジェクト)の連携を強化し、平成29年度には大和・紀伊半島地域を中核とした総合的な研究の実施及び研究への支援を行う「大和・紀伊半島学研究所」を設置しました。

### ●大和・紀伊半島地域の地方創生につなげるための教育研究を推進する

平成27年度に採択された地(知)の拠点大学による地方創生推進事業「共創郷育：「やまと」再構築プロジェクト」(COC+事業)として、やまと共創郷育センターを中心に大和・紀伊半島地域の地方創生事業に取り組んでいます。

この事業において、自治体や企業等と連携して、学生が地域の中に入り、課題を発見し調査・研究する体験型学修プログラムを教養教育・キャリア教育の一環として確立すると同時に、同事業を大和・紀伊半島地域の文化的・歴史的価値の再発見のための研究と連動させることを目指しています。



### ●大学のグローバル化を推進する

留学を奨励し、留学生の受け入れを拡大するために、留学希望者のための英語教育や、受け入れ留学生のための日本語及び英語による教育を拡充し、令和3年度には留学生の派遣100名(約30%増)、受入250名(約80%増)を達成することを目標としています。

平成30年度には、日本人学生の海外留学推進のため、留学への経済的支援や、派遣留学生130名を目標とする留学促進キャンペーンを行いました。また、留学生の受入拡大のため、ダブルディグリープログラムや短期派遣プログラムを実施するとともに、国際交流協定大学との連携強化を図りました。

これらの取組の結果、平成30年度は、大学プログラムによる留学107名、個人留学15名で目標の100名を超える122名が海外留学しました。また、海外からの留学生も240名から248名に増加し、目標の達成に着実に近づいています。